

八 幡 の 風

修学旅行を終えて

5月17日（火）から19日（木）の3日間、3年生は山梨・静岡方面への修学旅行に行ってきました。コロナ禍の中、実施できたこと。さらに天候にも恵まれ、美しい富士山の姿を堪能できたことに、まずは感謝です。

富士サファリパーク、富士山麓での体験学習、世界遺産センター、富岳風穴・鳴沢氷穴、富士急ハイランドと、小回りのきくバス移動のメリットを最大限に生かした濃密な3日間でした。富士山麓の自然や、様々な人との触れ合いを通して、生徒たちは、かけがえのないひと時を全力で楽しみ、また数多くのことを学んでくれたことと思います。



この3日間では、生徒たちの人柄や人となりを垣間見ることができました。

バスの運転手さん、ガイドさん、ホテルの従業員の方、見学地での案内の方などに対する生徒たちからの感謝の言葉は、実に自然で心地のよいものでした。集団で話を聴く際、聴くべき時はしっかりと聴き、盛り上がるべき時には自然に拍手が巻き起こるなど、メリハリがあるのも素敵です。

身についているからこそ、自然にさりげなくできるのだと感心しました。

また、修学旅行では、団体行動を通してマナーやきまりを守ることの大切さを学んだり、仲間への思いやりや協調性を育んだりするのも目的のひとつです。

仲間と行動をともにしながら楽しく過ごすということは、決して容易いものではありません。時には嫌な思いをしたり、させてしまったり、迷惑をかけたり、かけられたり、ということも起こります。困っている友だちにそっと寄り添



ったり、逆に支えてもらった時には素直にお礼を言えたり。そんな、ほっこりする場面にも、何度も出会いました。

修学旅行の引率者の中には、1年生の時からみなさんを見守ってきた先生もいます。そんな先生たちが、「3年生のみなさんの成長した姿を見ることができた」と力強く言ってくれたことをとても嬉しく感じました。



修学旅行の様子は学校ホームページ上でも紹介しています。
よろしければご覧ください。



QRコード

修学旅行(番外編・・・)

私自身のことで恐縮ですが、ふと昔のことを思い出しました。

私自身の修学旅行のことです。小学生の頃から乗り物酔いが激しかった私は、そのことが大きなコンプレックスでした。だから修学旅行も決して楽しみではありませんでした。

事前学習でのバスの座席決めの時は最悪な気分でした。友だちも少なく、ましてや乗り物酔いをする自分の隣には誰も座ってくれないのではないかと、むしろ恐怖の時間でした。乗り物酔いくらいで何を大袈裟な、と思うかもしれませんが、本人にとっては大問題です。コンプレックスとはそういうものなのだと思います。

黒板に書かれた座席表に、だんだんと名前が埋まっていく中で、私の隣の座席に名前を書ってくれた子がいました。彼とは特に仲が良かったわけでもなく、ただ空いていたからその席を選んだだけかもしれませんが、でも、私は彼に救われました。結局、修学旅行中の3日間、彼は嫌な顔ひとつせずに私の隣に座ってくれていました。私にとって、そのことがどれだけありがたかったことか。40年経った今でも、その時の嬉しかった気持ちが鮮明に蘇ってきます。私にとって、それほど大切な出来事だったのだと、今になって改めて感じることができました。

さらにもう少し思い返してみたとき、そう言えば、私は彼に対し、一度も「ありがとう」の気持ちを伝えていなかったことに気づきました。涙が出るほど嬉しかったくせに、当時の私は、強がりや気恥ずかしさから、素直な気持ちを出せていませんでした。東観中学校の3年生のみなさんのように、自然な「ありがとう」が言えていたらよかったのに、と当時の自分の未熟さが情けなくなりました。ずいぶん時間は経ってしまったけれど、今度、同窓会で会った時にでも、きちんとあのときの感謝の気持ちを彼に伝えなければ、とようやく思った次第です。今回の修学旅行で、3年生のみなさんの姿から気づかせてもらったことです。

(文責 校長 臼井正昭)